

高退協ニュース

No. 186
2013年
12月24日
発行
高退協局
高知事務

〒780-0850

高知県高等学校退職教職員協議会
高知市丸の内2丁目1番10
高知城ホール高教組気付
連絡先 Tel 088-822-6822
郵便振替口座〇一六五〇二二二一八九三

新年を迎えて



会長 國松 勝

会員みなさん、明けましておめでとうございます。

第二次安倍内閣が発足して丸一年が経過し、新しい年を迎えました。

安倍内閣のこの一年の政治を振り返って見てみますと、国民のくらしをよそにひたすら大企業とアメリカベツたりの政策を強引に推し進めてきた一年でした。

昨年暮れ、八割近い国民が慎重審議を望んだ特定秘密保護法案を強行成立させたことに象徴されるように、その政治手法は、衆参両議席の与党絶対多数を最大の武器に、国民の声を無視し、十分な審議もせず、法案を次々成立させるというファッショ的なものです。

このような安倍自公政権のもとで、急速に日本の軍国主義化と憲法の空洞化が進められようとしていることに、会員みなさんだけでなく、多くの人々が大変な危機を感じています。

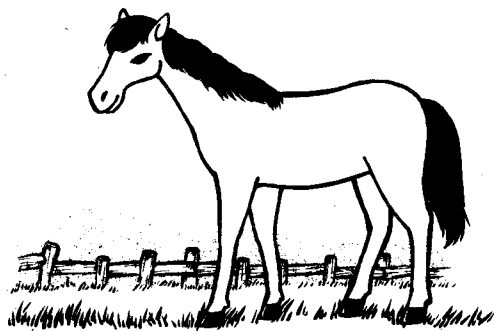
かつて、国民の大きな怒りのもとで崩壊した第一次安倍内閣は、その短い任期のなかで教育基本法を改悪し、権力の教育支配に道を開き、「日の丸」「君が代」を強制しました。

一昨年の暮れの総選挙で息を吹き返した安倍政権は、その重要政策の一つに教育改革を置き、教科書検定の見直しと道徳教育の必須化を強行し、国防意識の強化を学校教育に持ち込もうとしています。その一方で、特定秘密法と国家安全保障会議設置法を強行成立させました。

安倍内閣は、次の国会で「国家安全保障基本法」を立法化し、「集団的自衛権行使」容認を盛り込むことを明らかにしています。

この法律が成立すれば、自衛隊の海外での軍事行動に扉が開かれ、日本は「戦争できる国」へと変貌するることになります。

会員みなさん。安倍内閣のこのような企みをどうしても打ち破らなければなりません。今年は、平和と自由・民主主義を守る壮大な闘いのうねりを創る始まりの年です。秘密保護法案反対の高まりは、安倍内閣の戦争と国民抑圧への怒りとなって、政府を追い詰めるエネルギーに発展しつつあります。「教え子を再び戦場に送らない」旗を高く掲げ、平和と民主主義を守るため、ともに手をつなぎ、生きる希望を勝ち取る年にしようではありませんか。事務局員一同、力を合わせ、そのたたかいの先頭に立ち、がんばる決意です。



アンケート結果から

高教組委員長 竹島久美



十二月十日はボーナスの支給日でした。給与の削減とともに提示があり、交渉の結果こちらの削減は撤回されたので、何万円かは取り返しているのですが、思い出してくれた人はどれくらいいるのだろうかなどと考えてしまいます。現在行われている給与カットは三月で終了のようです。

高教組では、十一月の賃金労働条件確定交渉に向けて、「賃金削減についてのアンケート」を行いました。二百三十二名から回答が寄せられ、給与削減が生活に影響があったとの回答が七八・七%にのびりました（なかったは七・八%、わからない二二・五%）。一ヶ月の給与削減額は、一万円未満一二・五%、一万円以上二万円未満一九・八%、二万円以上四五・七%、わからない二二・〇%。生計費の中で影響があったものを選んでもらう問いで上位

にきていたものは、一位から順に、食料費、交際費、被服・履物費、こずかい、教養娯楽費となっています。給与削減分をカバーするためにやっていることの自由記述欄には、「会食に不参加」「飲み会を減らした」「外食をしない」「衣服を買わない」「書籍をなるべく買わない」「買物の回数を今までより減らした」「とにかく節約。スーパーでは一〇円でも安い方を買う」「消耗品をできる限り切り詰め、それでも生活費に不足する分は、貯金を切り崩してしのいでいる」など、いろいろ工夫(苦労?)している様子がうかがえます。この給与カットのせいで、いろいろなどころの売り上げに影響が出ているかもしれません。

また、青年部では、臨時教員対象のアンケートを行い、六十二名から回答を得ています。現在集計中ですが、切実な声が寄せられています。女性部でも、県教組とともに健康や生活についてのアンケートを行っており、県教組女性部で、そのアンケートの結果も示しながら県教委との懇談を行う予定です。全教の「勤務実態調査2012」のまとめが十月に発表され、それによると全国の教職員の一ヶ月の平均時間外勤務時間は六十九時間三十二分となっています。

現場からの直接の声とともに、こうしたアンケートに示された声も丁寧に拾いながら、また、武器にもしながら、要求を練り上げ、実現に向けて努力していきたいと思えます。

哀悼

窪田 充治さん

12月8日逝去

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

未来をひらく教育のつどい フクシマと運動するこども 日本の教育は変革できる

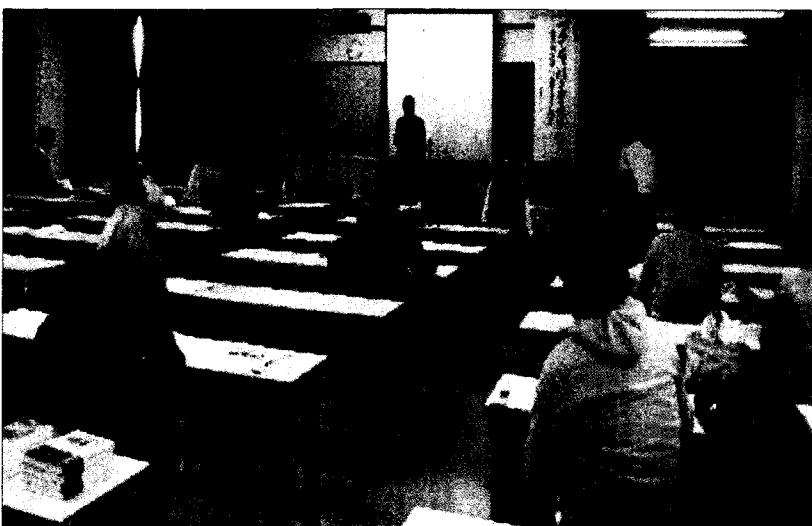
別研
課題
課教

武田 豊

未来をひらく教育のつどいの課題別分科会と全体会が、11月16日高知東工業で開かれました。分科会は、①高校生生活・学びでは、高校生も含めて19名の参加で、学校の部活動は、忙しいけど楽しく毎日が充実している。また、携帯電話やスマートフォン所持の必要性について討議されました。②学力保障・進路指導では、太平洋学園の進路指導の取り組みや、本年度から県内全公立高校1・2年で実施されている進路マップについての討議。進路マップは、メリットもあるがデメリットとして、小中学校で行われている「学テ」のような取り扱われ方（進路マップが目標設定になってしまふ）に注意をすべきではないか。③学校づくり・教育条件整備では、新しく赴任した「学校の不思議」を切り口に、公費・PTA会費や授業料負担の問題点などを討議しました。④障害児教育では、鳥取大の三木裕和さんを講師に招き、教育目標、評価の「数値化」の流れの中で、言葉にならない思いを伝えることの大切さを確認しました。

全体集会の講演 山下 正寿

全体会では、「フクシマに向き合う青年たち」と題し山下正寿さんが講演しました。講演では、ビキニ被爆を追究することに変わったのは、県内にビキニ事件の被災者がいて当時の高校生が被害を受けていたこと。幡多高校生ゼミナール（幡多ゼミ）の生徒たちが調査する中で、「被災の事実を認めさせまい」とする無言の圧力にもめげず生徒たちは一軒一軒ねばり強く続けられた。高知と福島を結ぶ生徒たちの活動から、福島の高校生は「私は、普通の高校生生活を送ることだけで精いっぱい、原発の問題は誰かが解決してくれる、自分の問題ではないと考えていました。自分には何もできないと決めつけ、自分を否定していました。高知で心に刻んだこと、体験したことをたくさんの方に心の底から伝えようと思いました。」そして2度目の交流では「福島の現実を知ってほしい」と幡多ゼミとの交流を通して成長する高校生の姿が浮かんできました。福島の原発事故を通しての教訓は、原子力関係者のほとんどは「勝ち組」エリートであり、立身出世の一つのモデルでもある。「地位・名誉・財産」はあるが「人格・良識・良心」の欠落したエリートが「戦争なみの原発被害をもたらした」責任者である。こうしたエリートをめざす教育が進められてきたことを根本から見直す必要がある。教育もまた「受験学力神話」から脱皮し「人格形成の教育」を取り戻すことが求められている。さらに高校生や青年の持つエネルギーを大きく育てるためにも、いま「フクシマに運動すること」で



「地位・名誉・財産」はあるが「人格・良識・良心」の欠落したエリートが「戦争なみの原発被害をもたらした」責任者である。こうしたエリートをめざす教育が進められてきたことを根本から見直す必要がある。教育もまた「受験学力神話」から脱皮し「人格形成の教育」を取り戻すことが求められている。さらに高校生や青年の持つエネルギーを大きく育てるためにも、いま「フクシマに運動すること」で

日本の教育は変革できる」チャンスであることが提言されました。

高退協

山陰の旅

橋元 陽一

高知市内を朝7時に出発してから高速で瀬戸大橋を渡り、尾道道く松江道を経て、出雲大社に向かいました。昨年から復活した高退協親睦旅行の参加者は、今年は19名（男性10名、女性9名）で、晩秋の島根を楽しんできました。松江道に入ると積雪があり、一旦高速を降りてタイヤの冬装備点検を受ける場面もありました。

バスの中では、田所金久さんから「アマテラスの誕生」く古代王権の源流を探るくとして題した自作の資料を配布して戴き、事前学習をしてガイドの説明を受けながら参詣しました。また隣接した古代出雲歴史博物館でもガイド付きで2班に分かれて説明を受け、大量に出土した銅鐸や金色の太刀などの展示物が圧巻でした。夜は玉造温泉の美人湯に心身ともに癒され、参加者全員が近況報告をしながら交流を深めました。93歳の浜田昌俊さんが「高退協のツアーが楽しい。死ぬるまで参加する。」と表明されたり、別役美佐さんが「高退協の若女将」になることを決意されたり、津軽三味線と安来節の競演の観賞など、楽しい島根の夜となりました。

翌日は石見銀山で駐車場から龍源寺間歩までの往復5kmを散策し、全員が歩いて世界遺産の銀山を満喫しました。帰路は広島を経由し、夜7時過ぎに無事に帰高しました。昨年復活した親睦旅行ですが、ぜひ来年も実現したいですね。

幡多支部望年会に参加して
森下清二郎

12月1日に幡多支部望年会があり、本部より倉橋副会長と私が参加してきました。私の中村訪問は約15年ぶりでしたが、通りには殆ど人がおらず車もまばらでした。日曜日だったこともあるでしょうが、テレビドラマの影響もあつてか大変寂しい思いをしました。望年会は、26名の参加者で盛会でした。まず、津野氏の軽妙な司会のもと、とうとう最年長となつたかとボヤキながらも心温まる開会のあいさつが木戸氏からありました。次に、世話役の森本氏の経過報告と会計係の奥本氏からの会計報告がありました。経過報告の中で、森本氏は「来年は、この会も開かれるかどうか分からない」旨のやや弱気な発言があり、私の挨拶の中で、現役の高教組のときも幡多支部が元気な時は高教組全体も元気だったので、高退協でも是非頑張ってもらいたいと激励してきました。その後、乾杯の音頭の後宴会となりました。宴会をしながら参加者一人ひとりの個性溢れる近況報告を兼ねた挨拶があり、場は大いに盛り上がりました。その後、有志で二次会にもいき少々悪酔いもしましたが久しぶりの中村の夜を楽しみました。



全退教 四国ブロック 交流集会に参加して



田中正

11月6、7日に愛媛県西条市で開催された、第21回全退教四国ブロック交流集会に参加しました。

1日目は、まず第1分科会（新居浜市の別子銅山記念館と別子銅山跡地見学）と3分散会に分かれて、連帯、平和・民主主義、生きがいなどをテーマに交流する第2分科会がありました。私は第1分科会に参加しました。別子銅山記念館では、館長が別子銅山の開発の歴史や銅の発掘、銅山の詳細、働く人たちの様子や生活文化を展示物やビデオで詳しく紹介していただきました。明治時代からの住友金属鉱山や住友財閥の発展の裏側の国策や資本主義の発達についても触れていただければ、とも思いました。その後は、



別子銅山最盛期に採鉱本部が置かれ、その当時の産業遺産が今でも残る「天空の産業遺産」「東洋のマチュピチュ」と呼ばれる新居浜市東平（とうなる）のマイントピア別子を訪問しました。時間が迫ってきていたので、長居はできませんでしたが、旧水力発電所や第四通洞、索道停車場跡地などを見学でき、当時の栄えた面影や雰囲気、ブロック造りの建物の美しさに触れることができました。その後、全体会があり、4県6組織から65名が参加し、各組織代表から活動報告がありました。それぞれ組織状況や地域性を生かした活動が報

告されています。（高知高退協は、田中が報告）

夜は、4県6組織からの出し物や地酒もあり、懇親会を楽しみました。

2日目は、記念講演と分科会報告、閉会行事がありました。記念講演は、「水野広徳―軍服を脱いだ平和主義者―」と題して平岡瑛二氏（松山市立子規記念博物館学芸員）が話されました。日露戦争で海軍大尉として出撃し、戦功を立てた水野はその日本海海戦の戦記を「此一線（このいつせん）」として執筆・出版し、これが一大ベストセラーとなります。のち水野は、第一次世界大戦の実状を視察するため二度にわたって渡欧し、そこで想像を絶する戦禍と国家の荒廃を目撃し、これにより近代戦の恐ろしさを自覚し、海軍と決別、平和主義に立つ軍事評論家として活動を始めます。戦争へと向かう時代において、彼の言論活動には厳しい統制が加えられますが、太平洋戦争終結の年に満七十七歳の生涯を終えるまで平和主義者として信念を曲げなかった水野の生き方を平岡氏は淡々と、そして力を込めて講演されました。

特定秘密保護法などが突如出てきたキナ臭い時代に、私たちが今何をすべきかを問う内容

でした。なお、この「平成24年度特別展 水野広徳 一軍服を脱いだ平和主義者」は、平成25年2月11日（月）まで松山市立子規記念博物館で開催されています。来年は、香川高退協主催で、大倉ホテル、玉藻公園、栗林公園などを会場に11月13・14日（木・金）に開催されます。是非、参加されて、四国の仲間と交流してください。

団結の望年会

文化の芸能大会

別役 美佐

国民の大多数は、国政を牛耳ろうとする政権に怒りを込め、数々の行動決起集会のまっ最中。「今こそ、結集して団結の力を！」の意気込みを心に秘めて、今年の望年会・芸能大会が開かれました。

司会を担当するのは、今年加入した若葉マークの2人（田中正さん・小松茂弘さん）です。大先輩を前に職務の遂行にあたります。久しぶりに顔を合わす仲間達との会話、健康、若さの秘訣を大皿に盛りつけて、お互いの近況報告に花が咲きます。心は、ほろ酔い、お腹は八分で、ステージは、第二部に突入です。

舞台の幕開けを飾ったのは、恒例のしぼてん踊りです。その所作は「お座敷芸」の域を超えて、伝統伝承芸能のひとつとなる妙技です。その動きからしぐさまでが、新鮮かつ斬新で、見とれてしまいました。（踊り手・井上徳治さん）続いて登場したのは、歌謡舞踊部門です。「人生道連れ・銀座カンカン娘」の曲をバックにしなやかな手さばき、足さばきで、表現していきます。観衆の（舞台が狭いかな？）の心配もよそに、ホール4階は、「高退協演舞場」へと様変わりです。若々しい立ち姿に魅了されました。（舞い人・加藤敏江さん）



三番手は、今年は、2回目となるポリビア訪問をはたし、ますますケーナに魅せられ、その音色を流布させ

ていくことに力を注ぐ演奏家です。民族衣装を身にまとい、身体も心もフォルクローレの世界を味わわせていただきました。（演奏者・川村かつ枝さん）そして、高退協の歌姫による「一本の鉛筆」の歌唱です。アカペラならではの声の響き、声の色に聞き惚れながら、再度、歌詞の意味を噛みしめるひとときでした。（歌い手・畑山佳代さん）

日頃の練習と鍛錬の賜物である文化芸能を堪能しながら、会場からは、さらさら芸に磨きをかけ、熟練の技を。観衆を魅了するさらなる妙技を「の応援と声援の拍手でした。談笑の内に閉会の時間が近づいてきました。



最後は、全員で「緑の山河」の合唱です。スクラムを組む腕に力を込めて、お互いの健康を願いながらも、来年に向けては、これまで以上の団結・結集の力で立ち向かっていくことを高らかに歌い上げ恒例行事を終了することができました。来年が、「望」の文字に見合うように、前進することを確認しながら。

来年は、さらに呼び声を大きくして集い、集まり、高退協の文化と芸能分野を発展させていきましょう。

本心を露わにした'12年自民党改憲案

横田 慧

'12年自民党改憲案（以下、'12年案と書く）を手にしたとき、思い浮かんだ言葉は「古色蒼然」でした。'05年自民党改憲案（以下、'05年案と書く）と比べてみると、'05年案が仮面をかぶっていたことがよくわかります。'12年案こそ'05年にハラにもっていた本心だったのです。

'05年案の前文では、「象徴天皇制は、これを維持する」とか、「国民主権と民主主義、自由と基本的人権の尊重、及び平和主義と国際協調主義の原則は、不変の価値として継承する」などと述べていました。それが、'12年案では、近代民主主義の歴史さえも知らないように、日本固有の文化から説きおこし、のっけから「天皇を戴く」を頭にして、「国民主権、三権分立」を書きそえたものです。'06年の教育基本法改定以後、テレビなどでしきりに「日本固有の文化、伝統」がことさらに強調されるようになったのも、根は一つだったのです。だから'05年案ではまだ、第97条の基本的人権尊重が人類多年にわたる成果であるとしているのに、'12年案では第97条全体をバツサリ切り捨ててい

ます。そういえば、第9条の変え方も、'05年案ではけっこう練ったものようでした。なにか「三ツ矢作戦」を連想させられる治安出動が「加憲」だとは思いましたが、'12年案では'05年案には付いていた「緊急事態」も除いて、公の秩序維持活動を前面にだし、国民鎮圧の軍隊そのものです。さらに、'05年案には、特別裁判所は置かないという現憲法の規定を残したまま、軍事裁判所をおくとしていましたが、'12年案は、堂々と第9条に軍事裁判所を置くとしています。国民も被告にされます。もちろん、第9条改憲の本命は米軍と一緒にの海外出兵です。

基本的人権条項の混乱ぶりはひどい。'05年案では第11条の「個人として尊重」が残っていましたが、'12年案では「人として尊重」に変えられ、近代政治上の「個人の尊厳」に無知であることを示しています。現憲法の「公共の福祉」を「公益及び公の秩序」に変えた狙いは治安維持法と同心です。ここらあたりも、教育基本法改定のとときからのぞいていた安倍首相の「世界観」ともいえます。

第96条の憲法改正条件三分の二条項を過半数にするというのも、教育の憲法・教育基本法改定で「味をしめ」て、憲法全条項も「過半数」で変えちゃえという、野蛮で邪な執念からでしょう。

飲水思源

第13回高退協スキー研修のご案内

恒例の高退協スキー研修、今回は北海道ニセコスキー場で開催となりました。雪質の良さ、宿泊施設の良さ、ゲレンデの多様さなど、大満足のスキー場です。ぜひご参加ください。

日程 2014年2月12日(水)～2月16日(日)

場所 北海道ニセコスキー場

宿泊先 ヒルトンニセコビレッジ

費用 約118,000円(2名1室の場合 予定)

申込先 まずは、下記までご連絡ください。

小松 茂弘 090-3787-6374

松山 和雄 090-9557-3618

申し込みされた方には、旅行日程などの詳細と振込み用紙をお送りします。

申込みは1月10日(金)までをお願いします。

川柳

南 碧抄⑤ 小澤幸泉

家族写真独りの部屋に飾られる
人生の旅路はるばる振り返る
終わりのなき今日を生きよと夢を出す
不器用に生きて上手に死ねますか

人生は忘れるようにできている
生命なり道なり聖書何を説く
空っぽな心に何が入るだろう



あの一とが待つてる森へ行きましよう
途中下車できぬ人生振り向かず

俳句

10月19日(土)
中土佐町久礼

合田青幹

一門の俳縁深む浦の秋

秋潮や鬼の伝説生れし島



小笠原さちを

手水酌む一枚岩や秋風澄む

野分余波サーフィンに乗る三四十

11月16日(土)
土佐市宇佐36番札所清龍寺

合田青幹

寒禽を前後左右に女坂

寒林を二つに分けし磴険し

吉本伸秋

一花といふ力ありけりか返り花

不動の剣の切つ先冬日澄む

小笠原さちを

綿虫や一札をして仁王門

焚火らし葦の中洲に煙立つ

短歌

緒方貞子さん

山本晶子

卓越せる見識買われ国連難民
高等弁務官に 貞子六十三歳

一人でも多くの命救うため前
例破り決断下さ

アフリカの少女の名前はサダ
コオガタあちこちにいるサダ
コオガタは

「マツカーシズム」の
中での「ローマの休日」

榊原忠彦

柔らかさう一束百三十円のほ
うれん草おひたしに妻つくり
しものを

(火曜市の店々を見ながら)

脚色者トランポは名を隠す「
赤狩り旋風」批判の名画

「ローマの休日」のこと。一九
五三年、ウィリアム・ワイラー監督、
オードリー・ヘプバーン、グレゴリー
ペック。十一月某夜のBS歴史館視聴

戦争国へといつか来た道極め
ゆく情けなき議員ら選びし国民
(忘れてはならぬ十二月六日)

怒りのコール

叶岡淑子

原発と秘密保護法オスプレイ
列島つつむ怒りのコール

ASEANは平和の地域共同体
世界の流れ直視するとき

この年も「勤評」を共にたた
かいし先輩同輩の訃報の悲し

